

川越市の地名① 「宿」

二回にわたって、かつての経済活動がわかる市内の地名を紹介いたします。今回は「宿」という地名です。

市内で、戦国時代より前から今に残る「宿」という地名を探してみると、大字では「東本宿」、小字では古谷上の「上宿・宿」、古谷本郷の「本宿」、的場の「上宿・下宿・宿」、池辺の「北宿・南宿」があります。

最近の研究によると、戦国時代ごろまでは多くの商人や職人、宗教者が各地を遍歴しながら活動していたようです。彼らの宿泊場所が正に「宿」でした。当時の「宿」は、水陸交通の要衝として栄えていて、近くには川が流れ、社寺もありました。河原などでは、遍歴する人たちが利用する市が定期的に開かれていました。また、「宿」の地名の周辺には、「市」の付く地名や、主要な道路の存在を示す「大道」「街道端」という地名が残っている場所もあります。



水陸交通の要衝で、人や物が頻繁に行き来する、にぎやかな場所。「宿」という地名から、昔の風景を想像することができます。

世界の国から、こんにちは！



ペルー／エスカランテ・カルメンさん

日本へ来て13年です。短大まで関西で暮らしていました。川越へは、半年前に来ました。京都のように歴史が残っていて、びっくりしました。

出身は首都のリマ市です。梅雨がなく、夏はクーラーがいらず、冬はセーター1枚で過ごせます。中央広場で行われる衛兵交代式は楽団がにぎやかで、見ていて飽きません。クスコの遺跡・ナスカの地上絵は、日本でも有名なようです。川越市の依頼で、ペルーの事を市内の中学校で話しました。生徒からいろいろ質問が出て、楽しかったですね。
*外国籍市民の皆さんを対象にした催しは13・15ページ、相談は22ページをご覧ください。

国際交流課国際交流担当・TEL内線2141

編集後記

どんぐり

ことしは梅雨の終盤に西日本を中心に記録的な大雨があり、各地で被害が発生しました。幸い市内では被害もなく、川越百万灯夏まつりなどの行事も盛大に行われ、広報担当職員は総出の取材が続きました▶日本の南海上で台風が3個発生した8月6日、川越市水防演習が開催されました。水防団員をはじめ300人以上の関係者が、台風による出水を想定した訓練を実施。30度以上の炎天下の中、ヘリコプターによる救出救助訓練などを近隣の皆さんも真剣に見ていました▶気象庁は、地震が発生する前に震度や到達時間を推定し、関係機関に知らせるシステムを開発し、8月1日から運用を開始しました。地震が発生したときの被害を最小限にするために、ことしも川越市総合防災訓練を、8月27日(日)に山田小学校で実施します。